



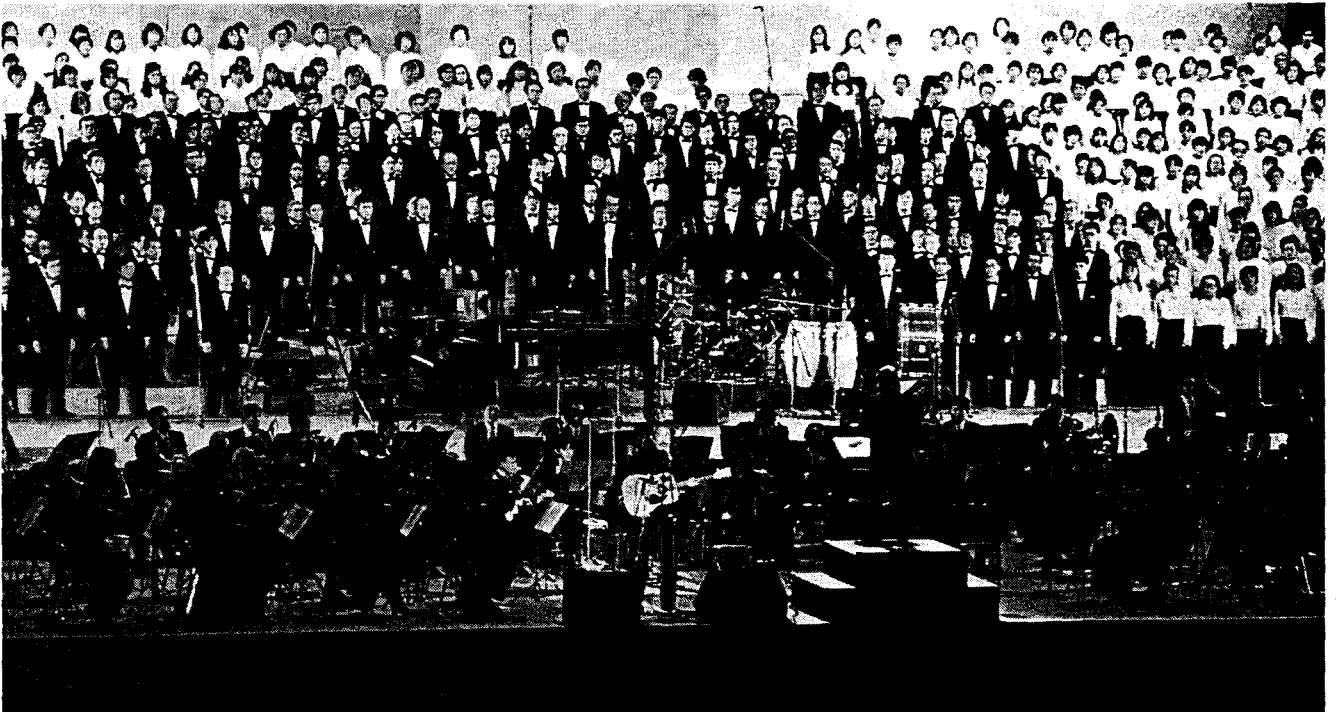
開幕と同時に歓声と拍手。アリーナまで並んだ、4000人の合唱構成〈ぞうれっしゃがやってきた〉(指揮・守屋博之、オーケストラ・大阪フィルハーモニー交響楽団)。日本のうたごえ祭典史上最高のスケール26000人が集い、歌い交した。

新しい世紀への歌声、ドーム揺がす

50周年記念
日本のうたごえ祭典
OSAKA

大阪ドーム26000人、合唱発表会

「充実の3日間でした」「うたごえってすごい」「元気がでた」
日本のうたごえ運動創立50周年記念のメイン・イベント大阪ドームでの「PEACE IN HARMONY」。音楽の調べに、参加者からも自由の火が揺らいでいる。その



▲ゲスト、上條恒彦さん「だれかが風の中で」。つづく50周年記念作品「花三題」は北は北海道から南は鹿児島まで各地で練習をつみあげ、全国合同初演(指揮・外山雄三、オーケストラ・大阪フィルハーモニー交響楽団)

祝・祭典成功 写真特集号

んなことのないように、私たちは私たちの歌を歌おう」とこの祭典をリードしていただいた黒田清実実行委員長。当日もステージから「日本に平和憲法がある、と言われるように、日本にうたごえ運動がある、と言われるように」と言われるよう広げよう」とあいさつ。
50周年記念作品「花三題」によせて作詩者の谷川俊太郎氏からは「…さながら天使の声のような美しいハーモニーにひそむ、人間のドラマを感じる

「感動」の音が異口同音に語られた。
「うたごえ運動50年の歴史は軍国主義を終結させ、平和憲法を持ち歩き始めた50年でもある。しかし、今、平和、自由の火が揺らいでいる。その

熱気と感動の波が押し寄せた大阪ドーム祭典が、終いよいよ東京国際フォーラム祭典へ。大阪ドームで日本のおたごえの歩いてきた道をかつてのフィルムを編集してビデオ上映された。『原爆をゆるすまじ』に始って基地反対の闘い、労働者の生活を守る闘いのうた、障害者の生きる権利を求めて働く作業所の寸描など短い時間に五十年をかいま見ることが出来た。うたごえ運動の土台の深さと広がりを思うと、個々では知り得ないドラマが無数に花開いていると思う。
☆☆☆
この五十年で世界は大きく変った。内戦につぐ内戦で飢えた子どもたち、国を追われた難民など、一見豊かにみえる日本では想像のつかない事が日々起きていく。黒柳徹子著「トットちゃん」とトットちゃんたちは「栄養失調や、感染症、また内戦や戦争に巻き込まれながら、愚痴もいわず、大人を信じて死んでいった一億八〇〇万人の、小さな子どもたちの魂に捧げます」と著者のメッセージにあるように一九八四年からユニセフ親善大使として活動された記録だ。
同じ地球に生命をうけて、こんな事が許されていないのか、怒りと子どもたちの美しい心に涙なくしてはいられない内容だ。
東京フォーラム祭典にむけて「地雷ではなく、花をください」の創作が始まっているが、皆さんの力で必ず成功させたい。(T)